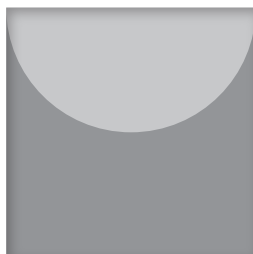
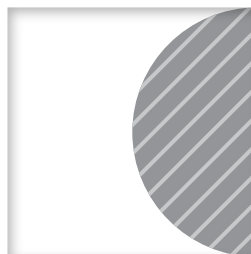
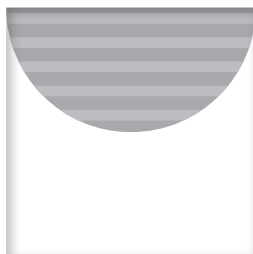
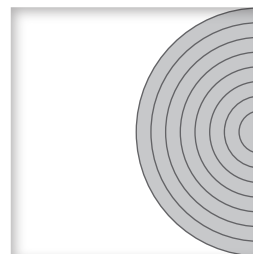
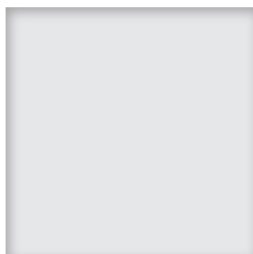
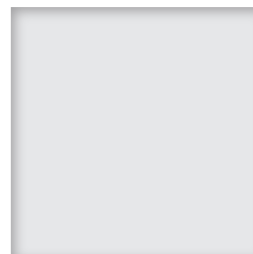
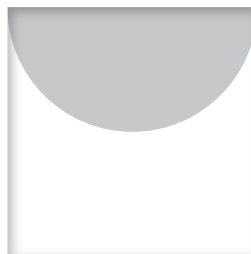
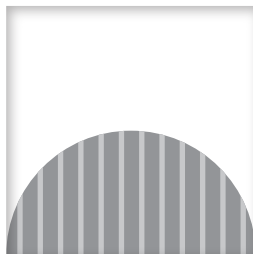


第92期

中間報告書

2020年4月1日から2020年9月30日まで

FDK株式会社



■ 株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申しあげます。
ここに当社グループ第92期中間期（2020年4月1日から2020年9月30日まで）の決算をご報告するにあたり、一言ご挨拶申しあげます。

当中間期は、新型コロナウイルスの感染拡大によりサプライチェーンが混乱する状況において、お客様、お取引先様、従業員とその家族の安全確保と感染拡大の防止を最優先にテレワーク勤務や時差通勤などの感染拡大防止対策を講じ、お客様への製品・サービスの供給などの事業継続に努めました。また、このような事業環境においても、本年4月にスタートした中期事業計画「R1」で掲げた構造改革／事業改変を継続して実行し、現行ビジネスの安定化と利益ある成長の確立に向けて、既存ビジネスの質を転換させる取り組みを着実に実行してまいりました。さらにSMD対応小型全固体電池につきましては、量産開始に向けて当社湖西工場（静岡県湖西市）での量産ラインの構築を推し進めてまいりました。

当中間期の経営成績につきましては、昨年7月の事業譲渡により売上高は前年同期に比べ20億10百万円減の299億75百万円となりましたが、構造改革の効果や経費削減により営業利益は前年同期に比べ9億27百万円増の9億63百万円となりました。経常利益は7億9百万円（前年同期は37百万円の経常損失）、親会社株主に帰属する中間純利益は5億2百万円（前年同期は6億85百万円の親会社株主に帰属する中間純損失）となり、新型コロナウイルス禍のなかではありましたが、いずれも大きく業績が改善しました。当中間期の業績の詳細につきましては、当報告書の4ページをご覧ください。

中間配当につきましては、未だ欠損状態でありますので、誠に遺憾ではございますが、見送らせていただきたいと思います。株主の皆様には誠に申し訳なく、心よりお詫び申しあげます。

下期以降につきましては、2020年8月に発表しました当社アルカリ乾電池の製造子会社であるPT FDK INDONESIAの事業譲渡が10月1日付で完了したことにより、アルカリ電池事業につきましては、高品質な製品とスピーディーな供給体制で国内市場向けのビジネスに集中し、利益率の更なる向上および事業体質の強化を図ってまいります。また、「R1」で掲げる新事業につきましては、SMD対応小型全固体電池の早期のビジネス貢献に向けた取り組みを推し進めるとともに、11月に発表した大規模蓄電池用次世代電池である水素／空気二次電池や現在開発を進めているニッケル亜鉛電池につきましても、実用化に向けて開発を加速してまいります。

当社グループは、株主様をはじめとするステークホルダーのすべての皆様に満足いただく「And Game」を実現するために従業員が自律的にお客様に満足いただける努力を惜しまない企業文化の醸成に努め、引き続き企業価値の向上に繋げてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも引き続き当社グループをご支援賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



代表取締役社長
長野 良

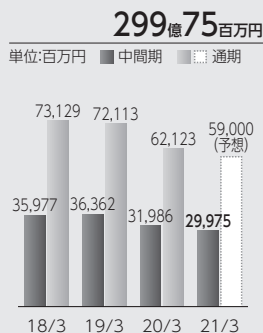
Profile プロフィール

1961年9月7日生まれ
1985年4月 富士通(株)入社
2019年4月 当社執行役員常務
2019年6月 当社代表取締役社長

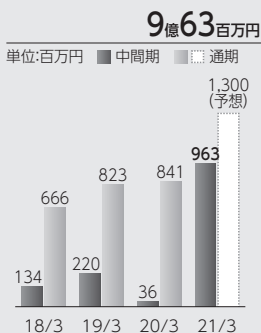
2020年12月

■ 連結決算ハイライト

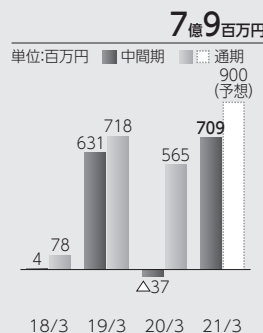
売上高



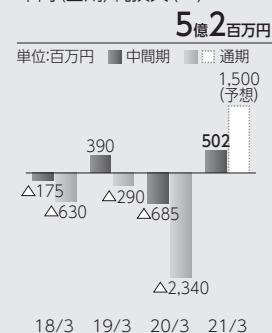
営業利益



経常利益又は経常損失(△)



親会社株主に帰属する中間(当期)純利益又は親会社株主に帰属する中間(当期)純損失(△)



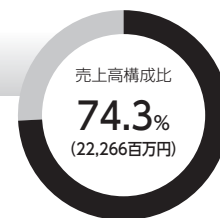
■ 事業別の概況

電池事業

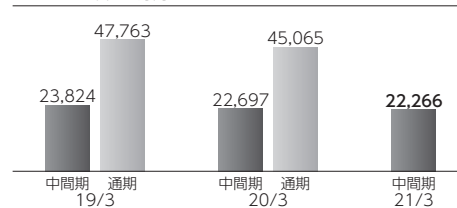
電池事業はアルカリ乾電池とリチウム電池が増加したものの、ニッケル水素電池と設備関連ビジネスが減少したことにより、前年同期を下回りました。

製品別につきましては、ニッケル水素電池は、北米での市販用途向けのインターネット販売や医療機器のバックアップ用途向けが伸長したものの、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う店舗休業や工業用途向けの受注延伸により、前年同期を下回りました。アルカリ乾電池は、北米での市販用途向けインターネット販売が伸長したことに加え、国内市販ビジネスも堅調に推移しており、前年同期を上回りました。リチウム電池は、国内のセキュリティ・スマートメータ用途向けやテレワーク推奨に伴うパソコン用途向けなどが伸長したことに加え、新型コロナウイルスの影響で停滞していた海外のセキュリティ・スマートメータ用途向けの供給も再開し、前年同期を上回りました。設備関連ビジネスは、新型コロナウイルスの影響で自動車用部品組立設備受注が減少したことにより、前年同期を下回りました。

その結果、当事業全体の売上高は、前年同期に比べ4億31百万円減の222億66百万円となりました。



売上高 単位:百万円

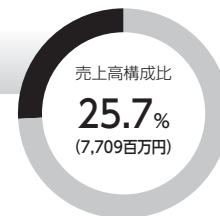


電子事業

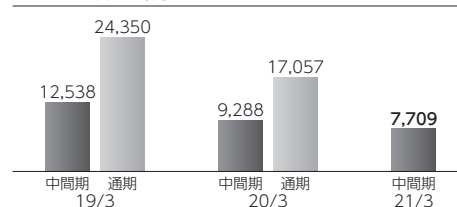
電子事業は前期に実施した一部事業の譲渡による売上減に加え、各種モジュールなどが減少したことにより、前年同期を下回りました。

製品別につきましては、各種モジュールは、テレワーク拡大に伴うパソコン・タブレット用途向けや新型コロナウイルスの感染拡大に伴う医療機器用途向け、半導体製造装置用途向けで伸長したものの、産業機器・車載などモビリティ・地上デジタル放送装置用途向けなどが減少したことにより、前年同期を下回りました。

その結果、当事業全体の売上高は、前年同期に比べ15億79百万円減の77億9百万円となりました。



売上高 単位:百万円



トピックス

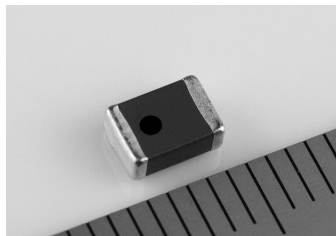
SMD対応小型全固体電池"SolLiCell™"を年内量産開始

当社は、SMD対応小型全固体電池"SolLiCell™"の年内量産開始を決定し、当社湖西工場（静岡県湖西市）で量産体制構築に着手しました。

当社のSMD対応小型全固体電池は、従来の電池に使用している電解液を固体に置き換えた安全・安心な二次電池で、IoT機器やウェアラブル機器、RTC（Real Time Clock：リアルタイムクロック）、SRAM/MCUなどの半導体関連製品や、これまでの電解液を使用した電池では適用困難な高温、真空などの過酷な環境下など、高耐久性が求められるアプリケーションにご使用いただける小型電池です。

2018年12月にSMD対応小型全固体電池を開発、2019年5月には従来の内部構成と形成プロセスを改良することにより、従来比2.5倍の体積エネルギー密度の高容量化を実現し、サンプル出荷を行なってまいりました。

2020年6月にはSMD対応小型全固体電池の量産仕様（4.5x3.2x1.6mm, 3V 0.5mAh）を決定するとともに、2020年度第3四半期中の量産開始に向け、当社湖西工場において量産体制の整備を進めております。2020年度中には月30万個規模の生産体制を整備し、2022年度には月200万個規模とする計画となっており、今後もSMD対応小型全固体電池の生産体制の拡充を進めてまいります。



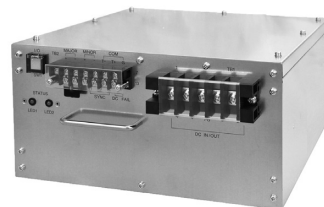
SMD対応小型全固体電池"SolLiCell™"

交通インフラ・産業用途向けDC24Vニッケル水素バッテリーシステム「BBUS-122024-02」を発売

当社は、鉛蓄電池（組電池含む）からの置き換えが可能で長寿命なDC24V ニッケル水素バッテリーシステム「BBUS-122024-02」を製品ラインアップに新たに追加、2020年7月に発売しました。

交通インフラ分野では設備保全の効率化に向けた取り組みが進められています。当社は、①鉛蓄電池の充放電挙動を取り入れた制御により置き換えを容易化、②小型で並列接続仕様（鉛蓄電池の同等品に比べ体積で34%減、質量で48%減）、③低温放電特性の良いニッケル水素電池の搭載、④監視・通信機能を搭載することにより、お客様のご要望すべてを実現するバッテリーシステムの開発に成功しました。さらに本製品は、鉄道JIS E規格に準拠しています。

今後も各種バッテリーシステムの開発、性能・品質向上、製品ラインアップの拡充など、Smart Energy Partnerとして先端技術を結集し、お客様に電気エネルギーを効率的にご活用いただける提案を行ない続けてまいります。



DC24V ニッケル水素バッテリーシステム
「BBUS-122024-02」

4月

5月

6月

7月

8月

9月

積層可能な10Ah水素／空気二次電池を開発

当社は、大規模蓄電池用次世代電池の一つである水素／空気二次電池の開発に取り組んでおり、10Ahの積層可能な水素／空気二次電池を2020年11月に開発しました。

本開発品は、今後、低炭素社会の実現に向け、ますます需要が期待される再生可能エネルギーを貯蔵し必要に応じて電力供給し、災害発生時には、停電対策にもなる蓄電池システム用途向けを想定しております。これまでの蓄電池システムでは電池材料に可燃性や発火性の物質が使用されているために大きな火災につながったといった安全面の問題や、環境に影響を及ぼす材料使用による環境面、設置場所が制限されるなどの課題があり、当社は、このような課題について、既存事業で培ったニッケル水素電池の技術をベースにニッケル正極を空気（酸素）に変えた水素／空気二次電池を開発しております。

今回開発した積層可能な10Ahセルは、正極（空気極）と負極（水素吸蔵合金（MH）極）とセパレータや空気を送り込む流路を流路板等の部材をひとつのセットにして重ねていくパイポラ型と呼ばれる構造により、多直化が容易で低抵抗化も可能です。

開発した10Ahの単セルを充放電評価した結果、10Ahの容量を確認するとともに、5A（62.5mA/cm²）の電流値で充放電を繰り返しても安定した充放電挙動を確認し、さらに容量を確認したところ、サイクル前と同様の容量を確認できました。

今後、開発した10Ahセルをベースに1kWh級のモジュールで蓄電池システムを構築するとともに、太陽光を中心として再生可能エネルギーと組み合わせた実証模擬実験を2021年度に実施する予定です。将来の水素／空気電池の事業化に向けた更なる高出力化・高耐久化、低コスト化などの検討を継続し、2022年度の量産化に向けて取り組んでまいります。

■ 連結財務の概況

■ 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当中間期末 (2020年9月30日現在)	前期末 (2020年3月31日現在)
資産の部		
I 流動資産 1	32,958	33,326
II 固定資産	14,309	14,359
（有形固定資産）	13,265	13,395
（無形固定資産）	449	466
（投資その他の資産）	594	498
資産合計	47,268	47,685
負債の部		
I 流動負債 2	35,107	36,095
II 固定負債	4,602	4,850
負債合計	39,710	40,946
純資産の部		
I 株主資本	10,362	9,860
資本金	31,709	31,709
資本剰余金	26,376	26,376
利益剰余金	△47,673	△48,176
自己株式	△48	△48
II その他の包括利益累計額	△2,809	△3,126
その他有価証券評価差額金	46	4
為替換算調整勘定	1	△110
退職給付に係る調整累計額	△2,857	△3,021
III 非支配株主持分	5	5
純資産合計	7,558	6,739
負債純資産合計	47,268	47,685

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨ててにより表示しております。

POINT

1 流動資産

流動資産は、前期末に比べ3億67百万円（△1.1%）減の329億58百万円となりました。その主な要因は、原材料及び貯蔵品が4億14百万円、仕掛品が3億41百万円それぞれ増加しましたが、現金及び預金が11億93百万円減少したことによるものです。

2 流動負債

流動負債は、前期末に比べ9億87百万円（△2.7%）減の351億7百万円となりました。その主な要因は、短期借入金が5億20百万円、未払金が3億48百万円それぞれ減少したことによるものです。

■ 中間連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	当中間期 (2020年4月1日から 2020年9月30日まで)	前中間期 (2019年4月1日から 2019年9月30日まで)
売上高	29,975	31,986
売上原価	24,246	26,554
売上総利益	5,728	5,431
販売費及び一般管理費	4,765	5,395
営業利益	963	36
営業外収益	145	90
営業外費用	399	164
経常利益又は経常損失(△)	709	△37
特別利益	—	331
特別損失	4	805
税金等調整前中間純利益又は 税金等調整前中間純損失(△)	705	△512
法人税、住民税及び事業税	225	148
法人税等調整額	△22	24
中間純利益又は中間純損失(△)	502	△685
非支配株主に帰属する中間純利益	0	0
親会社株主に帰属する 中間純利益又は親会社株主 に帰属する中間純損失(△) 3	502	△685

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨ててにより表示しております。

■ 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	当中間期 (2020年4月1日から 2020年9月30日まで)	前中間期 (2019年4月1日から 2019年9月30日まで)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー 4	365	2,038
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△917	△1,944
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△660	630
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	19	△249
V 現金及び現金同等物の増減額	△1,193	473
VI 現金及び現金同等物の期首残高	9,063	8,734
VII 現金及び現金同等物の中間期末残高	7,869	9,208

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨ててにより表示しております。

POINT

3 親会社株主に帰属する中間純利益

電池事業はアルカリ乾電池とリチウム電池の売上増に加え、医療関係や新たな生活様式での関連需要への対応、コストダウンなど費用増の削減に取り組んだこと、電子事業は選択と集中による損益の改善と前年度に実施した転進支援制度や海外子会社の固定資産の減損処理による全社固定費の削減効果も加わり、親会社株主に帰属する中間純利益は5億2百万円となりました。

4 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、たな卸資産の増加10億7百万円、退職給付に係る負債の減少2億39百万円、仕入債務の減少2億5百万円などによる資金の減少はありましたが、減価償却費の計上9億7百万円や税金等調整前中間純利益の計上7億5百万円などにより3億65百万円の資金増加となりました。

■ FDKグループの概要 2020年10月1日現在

FDKグループは、各種一次・二次電池および蓄電デバイスならびにエレクトロニクス関連の素材・部品とそれらの応用製品・応用装置の製造および販売を主な事業としております。

■ FDKグループの主要拠点

※工場・生産会社の [] 内は、主要生産品目です。

● 当 社

本 社

◆東京都港区港南一丁目6番41号

工 場

A湖西工場 [トナー]

B高崎工場 [ニッケル水素電池、蓄電システム]

C鳥取工場 [リチウム電池]

D鷺津工場 [アルカリ乾電池、リチウム電池]

営 業 所

①札幌営業所

④名古屋営業所

⑦福岡営業所

②仙台営業所

⑤大阪営業所

③首都圏営業所

⑥広島営業所

● 当社グループ

国内生産会社

1 (株) FDKエンジニアリング [各種製造設備]

海外生産会社

1 XIAMEN FDK CORPORATION

中国・廈門 [スイッチング電源、液晶ディスプレイ用信号処理モジュール]
[コイルデバイス、ニッケル水素電池・リチウム電池のパック電池]

2 FUCHI ELECTRONICS CO., LTD.

台湾・桃園 [液晶ディスプレイ用信号処理モジュール、DC-DC/パワーモジュール]

海外販売会社

FDK AMERICA, INC.

①米国・サニーバール

②米国・ダラス

FDK SINGAPORE PTE. LTD.

③シンガポール

FDK HONG KONG LTD.

④中国・香港

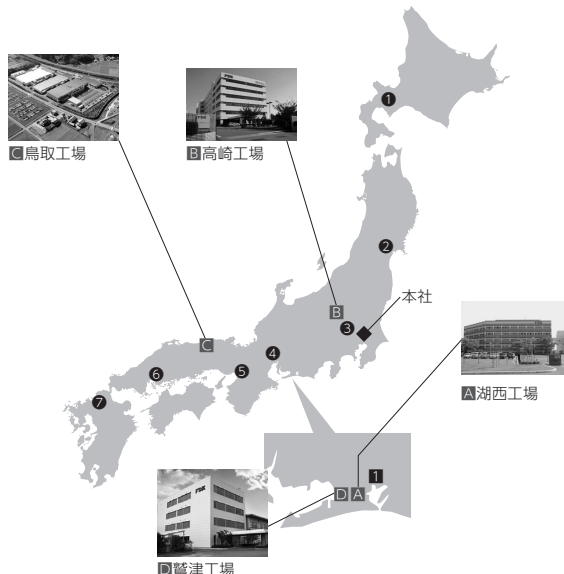
(ほか、連結子会社3社)

FDK ELECTRONICS GMBH

⑤ドイツ・ミュンヘン

FDK (THAILAND) CO., LTD.

⑥タイ・バンコク



■ XIAMEN FDK CORPORATION



■ 会社および株式の概要 2020年9月30日現在

■ 商 号 FDK株式会社

(英文社名: FDK CORPORATION)

■ 設 立 1950年(昭和25年)2月7日

■ 資 本 金 31,709,007,153円

■ 従 業 員 数 1,636名 [FDKグループ: 3,030名]

■ 主要製品

電池事業 アルカリ乾電池、ニッケル水素電池、リチウム電池、マンガン乾電池、蓄電システム、各種強力ライト、電池製造設備

電子事業 スwitching電源、DC-DCパワーモジュール、トナー、液晶ディスプレイ用信号処理モジュール

■ 役 員

● 取締役

地 位	氏 名
代表取締役社長	長 野 良
取 締 役	平 野 芳 晴
取 締 役	村 嶋 純 一
取 締 役	石 原 淳 児
監査等委員である取締役	木 下 高 志
監査等委員である取締役	江 口 直 也
監査等委員である取締役	神 谷 和 彦

(注) 1. 取締役村嶋純一、監査等委員である取締役江口直也および神谷和彦の各氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
2. 監査等委員である取締役木下高志氏は、常勤監査等委員である取締役であります。

■ 発行可能株式総数

株式の種類	発行可能株式総数
普 通 株 式	51,000,000株

■ 発行済株式の総数および株主数

株式の種類	発行済株式の総数	株主数(前期末比)
普 通 株 式	34,536,302株	15,688名(510名増)

■ 大 株 主

株 主 名	当社への出資状況		
	持株数(千株)	持株比率(%)	
富士通株式会社	普通株式	20,295	58.81
楽天証券株式会社	普通株式	345	1.00
富士電機株式会社	普通株式	339	0.98
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社 (信託口)	普通株式	314	0.91
JP MORGAN CHASE BANK 385781	普通株式	204	0.59
松井証券株式会社	普通株式	174	0.51
マネックス証券株式会社	普通株式	166	0.48
FDK取引先持株会	普通株式	127	0.37
田 中 章 吾	普通株式	125	0.36
後 藤 修 二	普通株式	109	0.32

(注) 1. 持株数は、千株未満を切り捨ててにより表示しております。
2. 持株比率は、自己株式(28,727株)を控除して計算しております。

■ 所有者別株式数分布状況



■ 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで	(電話照会先)	電話 0120-232-711 (通話料無料)
定時株主総会	毎年6月	公告方法	電子公告
議決権の基準日	毎年3月31日		当社は公告を下記ホームページに掲載しております。
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社		http://www.fdk.co.jp/kessan-j/index.html
特別口座の 口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社		ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行ないます。
郵便物送付先	〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部		

株式が「特別口座」に眠っていませんか？

1. 「特別口座」について

2009年1月に法令により株券の電子化が実施されましたが、その際、証券会社の口座に預けられていなかった当社株式については、現在、三菱UFJ信託銀行にある「特別口座」で管理されています。

制度上、「特別口座」に管理されているままでは、証券市場で株式を売買することができない等の制約がございます。

ご所有の株式が「特別口座」で管理されている株主様におかれましては、証券口座への振替をお願いいたします。

お心当たりございませんか？

- お手元に株券がある
(証券会社に株式を預けていない)
- 配当金のご連絡通知に記載されている株式数と、証券会社に預けている株式数が一致しない

お心当たり
ございましたら

株式が
「特別口座」で
管理されている
可能性が
ございます

◆ ご所有の株式が「特別口座」で管理されているかご不明な株主様は、三菱UFJ信託銀行証券代行部 ☎0120-232-711) までお問い合わせください。

(受付時間：土・日・祝祭日を除く平日9:00～17:00)

2. 「特別口座」にある株式の証券口座への振替方法

証券会社に口座を開設する。

すでに証券会社に株式の取扱いができる口座をお持ちであれば、新たに開設いただく必要はありません。

三菱UFJ信託銀行に振替用の請求用紙 「口座振替申請書」を請求する。

請求用紙に必要事項を記入・押印して 三菱UFJ信託銀行に送付する。

これで手続きは完了です。
証券会社の口座に株式が振替わります。

単元未満株式の買取請求のご案内

当社の単元株式数は100株となっておりますので、単元未満株式(1～99株)については、市場で売買することができませんが、当社に対して買取請求を行なうことができます。

● 買取制度の例 (60株ご所有の場合)

現在ご所有の単元未満株式

60株
(単元未満株式)

買取請求制度

当社株式60株を市場価格で当社へ売却し、
代金を受領する。

60株
(単元未満株式)



¥

¥

¥

当社ホームページ

<http://www.fdk.co.jp/>

当社IR情報

<http://www.fdk.co.jp/kessan-j/index.html>

